

令和7年度第1回瀬戸市図書館協議会
議事録

日時：令和8年2月16日（月）午後3時から4時30分まで

場所：瀬戸市文化センター 文化交流会館1階11会議室

出席者：13名

<会長> 中井 孝幸

<委員> 加藤 英憲（副会長）、石川 良文、加藤 絹子、加藤 由夏、川地 晴代
佐合 浩史、新川 裕美、村木 さやか

<事務局> 教育部長 駒田 一幸、図書館長 吉村 きみ、図書館専門員 幸村 弘美
図書館主事 矢野 和幸

欠席者：上田 綾子

傍聴者：1名

議事内容：

1 開会

事務局(専門員)進行

- ・ 会議成立の報告
- ・ 傍聴者へ注意事項の説明
- ・ 委員へ議事内容記録のための録音の説明
- ・ 閉会予定時刻の説明

2 あいさつ

○事務局(教育部長)

図書館本館はリニューアルオープンに向けて現在、その整備工事を進めている。昨年、この工事を進める中で建物を支える地盤の補強が必要であるということが、判明し、長寿命化工事と併せて安全対策の工事を追加して行っている。このため、当初は令和8年4月にオープンする計画であったが、リニューアルオープンを9月と改め、その準備を今着々と進めている。

オープンは延期となったが、ハード面の整備と併せてリニューアルオープンのタイミングでソフト面の見直しを行うべく検討を進めてきた。その内容としては図書館の運営体制について効率的な運営を行いつつ、サービスの向上を図っていくことを考えている。具体的には休館日、開館時間を見直し、そこで生じる財政的な効果を地域図書館の拡充、図書館のDXの推進に充て、図書館サービスの向上に繋げていきたい。

ソフト面の見直しは本日の議事の1つとしているので皆様からご意見をいただきたい。

○事務局(専門員)

- ・ 資料確認
- ・ 新委員の紹介

3 議事

○事務局(専門員)

議事に移る。議事については、瀬戸市図書館協議会条例第8条第1項の規定に基づき会長を議長として進行をお願いする。

○会長

今年度は、研究室で、資料1に記載のある地域図書館を調査した。残念ながら令和7年10月に新しく開設した長根小学校地域図書館は調査できなかったが、地域図書館は中学校区に1館ずつ設置されており、全国でも非常に珍しい取り組みである。

地域図書館は小中学校の学校図書館を土日祝に地域の図書館として開放しているため、図書館本館、パーティセと情報ライブラリーまでが遠い地域の方々が利用していると予想していた。利用者の特徴について分析をする中で、地域図書館を利用されている方々は1館だけではなく、複数館を利用されている方々が大変多いということがわかった。図書館本館、パーティセと情報ライブラリー、あるいは瀬戸市外の図書館も使われている。意外にも地域図書館の利用者はアクティブに動かれていた。身近なところに利用のきっかけになる図書館が1館あった方が、複数館利用を促す効果があるのではないかとすることを仮説として持っている。このような瀬戸市の取り組みを学会などで報告している。

今日の施設整備の流れとしては、いろいろなものを1つまとめる集約型が多い。集約型に逆行して、瀬戸市では分散型のサービスネットワークの構築をしている。規模は小さいが、地域図書館を足がかりとして、複数の施設を活用されるということは非常にユニークな取り組みではないかと考えている。今後もぜひ頑張ってください、この活動を続けていただきたい。

本日は報告もあるということなので楽しみにしている。委員の皆様もまた忌憚のないご意見を言っていただきたい。

(1) 報告

令和7年度活動報告

図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書の

まちづくり推進事業 愛知県瀬戸市での実践報告

○事務局(図書館長)

資料1に基づき説明

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。

○委員

図書館本館の休館中にまちに出て、読書活動を広げていくということでも素晴らしい試みだと思った。その中の1つについて資料1の6ページに学校図書館の支援「ひと箱本棚」づくりとあるが、具体的な内容を伺いたい。

○事務局(図書館長)

南山中学校の校長先生から「下駄箱のような本棚で使い勝手が悪い、子どもたちがドキドキわくわくする本棚をつくりたい」という相談を受けた。本棚を見たときに流行りの「ひと箱本

棚」を思いつき、「ひと箱本棚」としての利用を提案した。コミュニティ・スクールの地域コーディネーターさん等が金城学院大学図書館学生ボランティア<LiLian>さんに声をかけてくれ、大学生が中心となってワークショップを開き、中学生が参加することで資料1の6ページ右下の写真のような本棚が出来上がった。ワークショップは、夏休み前に1回、先週の金曜日にも第2回を開催し、また新たな本棚が出来上がった。

今あるものを生かして、何か楽しい学校図書館にできないかという提案をすぐに実行に移してくれとてもいい中学校だと思った。

○会長

今話題の石川県立図書館「百万石ビブリオバウム」には約7万冊で円形の日本最大のテーマ別配架がある。その中にこのような飾りの箱が1つずつ展示ケースであり、司書が持ち回りで担当している。石川県立図書館の展示に行かれたらぜひ見ていただきたい。コピーを貼ったり、作ったりをされながら1人1人の司書が全部作り込んで展示されているので見て楽しく、愛が感じられ、すごくユニークである。「ひと箱本棚」も裏と側面まで何かデコレーションをすると、その世界観が広がる。ぜひこういう取り組みをまたいろいろな場所で、実施していただきたい。

○委員

学校にあるものを活用し、飾ることで、子どもたちが行きやすく本を手に取りやすくなるというと思う。

商店街との協働などいろいろ実施され、本当にありがたい。それぞれのイベントにどのぐらいの参加者がいたかについて教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

6ページの講演会「ネット情報に溺れない学び方」は学校図書館教育研究会研修会と合同で実施し、30名が参加された。7ページの出版記念トークイベントは35名の参加があった。8ページの本棚編集ワークショップは3つの地域図書館で開催し、それぞれ10名程度の参加となり、少人数ではあったが、その分密度の濃いワークショップになった。10ページの今村翔吾さんの講演会は、100名を超える参加者があったと思う。11月16日の読書の祭典は午前中から1日かけて、催しを変えてというもので、参加者も入れ変わりというような形だったため、人数の把握をできていない。末広町商店街のニコニコ広場で人が自由に行き来できるような状態で開催した。

○会長

今年度の活動報告は作成されるか。

○事務局（図書館長）

資料1は文科省の委託事業をまとめたものである。毎年作成している活動報告とは目的が別のため、参加人数は落とせてはいない。文科省の委託事業以外の図書館事業を含めた活動報告を作成する。協議会でもお示しできると思う。

○委員

今回初めて参加するにあたってホームページで、活動報告を確認させていただこうと思ったが、うまく見つからなかった。どこかで公開していたら教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

本協議会及び社会教育委員会等の資料として作成しており、公開をしていない。公開に向けて検討したい。

○会長

資料1の7ページの書店との連携イベント、8,9ページで作った本棚を商店街の方に持って行くという図書館の外へ出て行く活動をされている。リニューアルオープンを機に、図書館を通じて瀬戸市のお店や色々な活動をしている方々の紹介をしていく取り組みもあっていいと思った。

新しい図書館ができると1.5倍から2倍ぐらいの利用者の方々が来られる。図書館には来館されるが用事が終わると、帰ってしまい、なかなか地域にお金を落としていってくれないという課題もある。新しく図書館ができると人の流れは生じるため、それを上手に活用したい。先日、千葉県の市川市の中央図書館にお邪魔したとき、店主の本棚という展示を図書館の中でやっていた。お邪魔した日はイベントとして酒屋さんの人たちが自分たちで選んだ本でひと箱本棚をしていた。展示にどんな本があるかというリストが配られ、持ち帰り自由で、リストにお店の名前も入っていた。

地域の人たちとの連携も当然あり、今回は書店が主であったが、店舗や色々な活動をしている団体などと繋がり、地域と連携して展示企画をすると、図書館に来た人たちに地域のことをよく知ってもらうことができると思う。この書店との連携のような考え方で、様々な業種の人たちとのコラボレーションもどんどんやっていただきたい。

○委員

今回の記録を拝見し、少ない人数で1年間に非常に多くの試みをされていて本当によくやられていると感じた。図書館本館が休館しているにも関わらず、たくさんの参加人数を集められたのは、どのような広報をしたからなのか。

○事務局（図書館長）

集客の方は、我々も大変苦労しており、なかなか今までの方法では人が集まらないと実感している。図書館ホームページ及び「広報せと」への掲載だけでは広がらないため、口コミを重視している。興味のある人に話していくことで、参加人数の増加に繋がっていると感じている。講師の方や参加者のSNS発信も助かっている。新聞の地方面での掲載は参加者増には繋がりにくかったが、中日ホームニュースへの掲載はものすごい反響があった。

(2) 今後の図書館運営について

○事務局（図書館長）

資料2に基づき説明

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。

○委員

地域図書館は各中学校区内に1館を設置することだが、地域図書館は全て中学校の学校図書館を活用しているのか。また、地域図書館がどこにあるかというPRはどのようにされて

いるのか。

○事務局（図書館長）

各中学校区に1館という形で、中学校の学校図書館を地域図書館として設置するものではない。中学校にある地域図書館は小中一貫校のにじの丘学園も含めると2館であり、残りの6館は小学校に設置している。

地域図書館へのアクセスは図書館ホームページ上で各地域図書館への道順を公開している。本協議会で何度も場所がわかりにくいとご指摘もいただいているため、地域図書館までの行き方を示した矢印付の写真も掲載している。パーティセと情報ライブラリーの窓口にも地域図書館のチラシを置いている。

○会長

図書館本館、パーティセと情報ライブラリー、地域図書館8館の計10館の場所が一覧でわかる紙媒体のチラシを地域図書館などにも置いておくと全体像がわかってよいと思う。

○委員

休館日及び開館時間が変わり、窓口体制は市職員による直営になるということで結構大きくやり方を変えられるが、予算の制約がありながら市職員でうまく回せていけるのか。どのような形になるのか教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

図書館本館の窓口を直営に戻すということであり、パーティセと情報ライブラリー及び地域図書館の窓口は今まで通り業務委託を続けていく。本館の運営は、市職員を2名増員、会計年度任用職員を2名増員し、10名体制で行う。2年前から市長部局と打ち合わせの上、一緒に考え、進めている。予算的には大変厳しいが、10名でシフトを組んでやっていく。また、DXの推進により、窓口業務の内、資料の貸出・返却、予約本の受け取りはセルフで行える機械を導入し、利用者の皆さんにもご協力いただいてやっていく。9月からうまく運営していきたい。

○会長

ICタグは導入するのか。

○事務局（図書館長）

ICタグには切り替えず、磁気テープのままでも利用可能な機械があったため、そちらを採用する。磁気テープに反応するゲートを、セルフ予約受取コーナーにも導入する。予約した人にしか貸出できないようにシステムが組まれている。予約していない人が予約本を持っていても、貸出処理ができず、磁気も抜けないためゲートが反応する。セルフ返却についてもバーコードをスキャンできる機械を利用する。また、セルフ貸出機は図書館リニューアルに伴う特別臨時休館前も図書館本館で使用していた。

○会長

ICタグの利点は複数冊同時に処理できることだが、1冊ずつでも確実に貸出・返却できるならば、それはすごくいいことだと思う。

○委員

工事中の図書館本館に伺うと、玄関の壁面がますます立派に見える。本当に素晴らしく、壁面が立派で迫力があり、リニューアル後も大切に図書館を使おうという気持ちになる。「妄想

におびえる人間が本を読んでつけた知恵でもって、妄想をやっつけてしまう」という意味があることを聞いた。

図書館友の会のメンバーから、年を取りだんだん大人が本を読まなくなってきたという話を聞いた。読むのが大変で、人に読んでもらえないなどもある。図書館友の会は子どもたちに本をと思い今まで活動していたが、大人のおはなし会など大人対象の催事も友の会で考えていると思っている。

市民と議会の意見交換会である「せとまちトーク」で、厚生文教委員会が「未来の図書館について」をテーマとして取り上げてくれた。また、2月14日の中日新聞朝刊名古屋版に市立図書館長寿命化へ2億円の記事が出ていた。瀬戸市全体で図書館のことを考えてくれていると感じた。

○委員

地域図書館のある学校に赴任することが多かった。司書派遣は助かっている。品野台小学校の図書館も子どもたちが見やすいようにとても綺麗にPOPを作っていた。品野台小学校地域図書館は地理的及び蔵書に児童書が多いという理由から、おそらく利用者は多くないと思う。光陵中学校に勤めていたときは、新刊本にはすぐに予約が入っていた。「今は図書館本館がやってないけどこれどうしたらいいんだ」と学校にお電話いただくこともあるため、地域図書館でも資料を用意できますよということがより周知されていくと、非常に回転が良くなっていくと思う。

○委員

先ほど話に出た石川県立図書館は展示などをInstagramに短い動画としてアップしている。図書館がどこに力を入れているのかがわかりやすいため、瀬戸市立図書館でもSNSの運用に力を入れてみたらどうか。InstagramとFacebookは公式であるが、XとLINEの公式もやられてみたらどうかと思う。Instagramは、写真や動画など視覚的な情報を発信できる。Facebookは、3,40代より上の方たちが使っているという印象がある。加えて、Xだと10代から40代までの少し下の年齢の方が多い印象があり、そこをターゲットに、始めてみてはいかがかなと思う。Xだとその投稿がシェアされるのが特徴としてある。イベントをたくさんシェアしてもらえると、より知ってもらえるきっかけになる。公式LINEは無料でアカウント作成できる。全世代が利用されているLINEだといろいろな人の目に留まりやすい。市民の方が自ら図書館のイベントを取りに行かなくても、公式LINEからポンと情報が1個くるだけで直接その市民の方に確実にイベント情報をお届けできる。友だち追加してもらおう手間があるが、イベント情報を確実に届けることができると思う。イベント開催情報だけでなく、イベントの開催結果なども投稿していくと、より雰囲気もわかりやすくなる。各SNSのターゲット層、その特徴を意識しながらそれぞれを活用していくとより拡散できると思う。市民の方も参加しやすくなり、イベント内容がわかれば瀬戸市内の事業者も図書館の取り組みに参画できるようになりやすいと考え提案した。

○事務局（図書館長）

瀬戸市には公式LINEがあり、そこに図書館のイベント等の告知はしている。中日ホームニュースも反響があったが、LINEを見て参加する方も非常に多く、有効だと思っている。自分

の興味のある項目にチェックを入れておくと、図書館のイベント情報などが勝手に届く。毎年決まった日に開催している本のリサイクル市の前回開催時に、普段来ない人がいらっしやっ
た。図書館休館中にもかかわらず、「どうやって調べましたか」と何人かの方に聞くと「LINE
で知りましたと」という方が多かった。瀬戸市立図書館の公式 Facebook、Instagram にも図書館
のイベント等の告知はしているが、こちらはあまり反応がない。

○会長

イベントの写真や動画をアーカイブして残していくこともすごく大事なことと思う。沖縄県
恩納村文化情報センターは観光案内をうまく組み合わせている。イベントの記録をしっかり残
して、図書館のホームページでアーカイブが閲覧できれば、より図書館が身近なものになる
と思う。確かにアナログも大事だと思うが、せっかく DX 推進とあるため、電子書籍だけでなく
デジタル情報も上手く活用するという意味でも、ぜひ前向きに取り組んでいただきたい
。

○委員

子どもが小さい頃、地域図書館をよく利用していた。さくまゆみこ『子どもを本好きにする
50の方法』におすすめ本300冊が掲載されている。それを制覇しようと思い、地域図書館に
通っていた。地域図書館までは徒歩圏内で、子どもと外遊びを兼ねて行けたので、ものすごく
いいことだった。目当ての本がなくても、図書館本館や他の地域図書館からも資料の取り寄せ
ができることを知って、すごくいいシステムだと感動した。有意義に活用させてもらったが、
他に活用されている方をあまり見かけなかったので、どうかこの良さを伝えたいという思い
がある。だが、結構難しく、どうしたら知ってもらえるかなと思う。

○会長

昨年の夏に、北欧4カ国を巡る図書館弾丸ツアーを実施した。10日間で図書館15館と公共
施設45カ所を訪問した。デンマークでは、幼い子どもたちを図書館に来させることを国の政策
として推進しているようである。研究によれば、4歳までに本に触れないと、その後一切本を読
まなくなるという結果が報告されている。このため、幼児を受け入れるように、多くの地域に
図書館が設置されている。図書館には、この会議室の約2倍の広さを持つベビーカー置き場も
あり、親が子どもを抱っこして図書館で遊ぶ文化が根付いている。

瀬戸市立図書館では小さなお子さん向けに「ブックスタート」事業を実施している。新たに
小さなおさんが誕生した際には、どのような本を「ブックスタート」として進めるか、また
図書館が身近にあることを知らせる取り組みが重要である。ただし、図書館だけでは成功する
ことは難しいため、他の部署や行政、例えば福祉課などと連携し、ネットワークを構築して図
書館のイベントを広く宣伝することが重要であると考え。その意味でも、直営の図書館運営
は非常に効果的であると思われる。

指定管理者による運営の場合、イベントのお願いがしづらい側面がある。指定管理者がイベ
ントを企画した際に相談すると、うまくいかないことが多く、直営の場合は同じ職員同士でコ
ミュニケーションが取りやすいため、連携の面でメリットがある。

図書館は無料で本を借りることができるため、非常に利用価値が高いと感じる。他の公共施設
とは異なり、図書館では利用に費用がかからず、時間の制約もないため、気軽に訪れることが

できる。このような活動を広めていただけると嬉しい。ぜひ、皆様の口伝えなどでも、多くの方に図書館を利用していただけるよう働きかけてほしい。

瀬戸市では調査を行っていないが、日進市で市内の公共施設の利用状況について調査を行ったことがある。一般の市民へのヒアリングによれば、図書館の利用率は約 35%であり、他の公共施設（公民館や郷土資料館など）は約 10%程度である。図書館を利用している方々は 3 割程度であるが、まだ 7 割の方々が利用していないのは非常にもったいないと思う。学校や他の施設からも図書館を利用してもらうために、本を借りることに限らず、まずは足を運んでいただくことが重要である。

最近の SNS の活用も、図書館のイベントや活動を広める上で非常に大切になると思われる。アナログとデジタルの両方で、図書館の活動を広めていくことをぜひお願いしたいと思う。

○委員

数年前から生成 AI が次第に普及してきており、特に学生が生成 AI を多用している。学生はレポートや卒業論文に生成 AI を使っているように感じる。Google などでも知らないうちに生成 AI による回答が得られるという状況が普及している。このような背景から、図書に触れることが非常に重要な 1 年になると考える。

瀬戸市の場合、今年は図書館本館がリニューアルされる。新しい地域図書館も既に開設され、地域的には一定程度ハードの整備が整ってきた。また、関係者の皆様はご苦労されたと思われるが、多くのソフトの事業が行われ、今年も図書館に関する話題が豊富にあると思われる。我々は協議会のメンバーとしていろいろな情報を得ているが、これらの情報が市民に伝わっているかが課題である。来年度は、市民の方々にこれらの情報をいかに伝え、本に触れたり図書館に訪れたりするようになるかが重要になると考える。

先ほどの SNS の活用のほか、紙媒体によるアナログの手段も重要である。「広報せと」は全世帯に向けた情報提供も行われるため、今年 1 年を通じてどのように広報するかの道筋が求められる。「広報せと」は数ヶ月前から掲載を予約しないと各部署に配分される掲載紙面が手に入らない。今年は図書館本館がリニューアルされるため、市民に対してこの大きな動きをいかに伝えていくかに注力するといいい。

○会長

図書館本館リニューアルオープンの記念式典などを実施する予定はあるか。

○事務局（図書館長）

記念式典の日程はまだ決まっていないが、これから詰めていく予定である。事前に内覧会などを開催したいと考えており、暑い時期ではあるが、計画を進めている。

一般の方々には、9 月 1 日から図書館を利用していただけるよう準備を進めているため、このスケジュールには変更がないと考えている。リニューアルイベントに関しては、早急に具体的な内容を決定する必要がある。何か良いアイデアがあれば、ぜひご提案いただきたい。

○会長

大規模なイベントを開催するのは身構えてしまうため、無理に大きなことを行う必要はないが、小さなイベントを定期的に行うことも重要であると感じている。

資料 1 の 10 ページの直木賞作家の今村省吾講演会ではどのような話があったか。

○事務局（図書館長）

今村省吾氏は図書館を重視し、図書館・書店連携を実践している。とても素晴らしいお話がされた。ご自身も商店街の本屋で育った経験があり、作家になるきっかけもそこにあったとのことである。また、末広町商店街は通っていた商店街に似ており、その雰囲気非常に気に入っていたとおっしゃっていた。

○会長

今後、広報戦略を練り上げた上でいろいろな活動を展開してほしい。図書館本館は9月1日からオープンされるとお聞きした。来年度や再来年度には、新しい事業がいくつか考えられると予想されるため、本協議会を2回程度開催しても良いのではないかと考えている。今後の検討をお願いしたい。

(3) その他

○会長

他に意見や質問がないようなので次の議事に進む。進行を事務局に戻す。

4 その他

会長から引き継ぎ、事務局が進行

○事務局（図書館館長）

資料3～5に沿って説明・報告。

5 閉会

○事務局(専門員)

今回の図書館協議会は来年度の開催予定。来年度以降は通常通り年2回開催していきたい。

令和7年度第1回瀬戸市図書館協議会
次 第

日時：令和8年2月16日
午後2時～3時30分
会場：瀬戸市文化センター
文化交流館1階11会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 報告

令和7年度活動報告

図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書の
まちづくり推進事業 愛知県瀬戸市での実践報告

資料1

(2) 今後の図書館運営について

資料2

(3) その他

4 その他

5 閉 会

図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業

愛知県瀬戸市での実践報告

令和8年3月

きっかけは、新館建設断念。 → これが事業につながった！

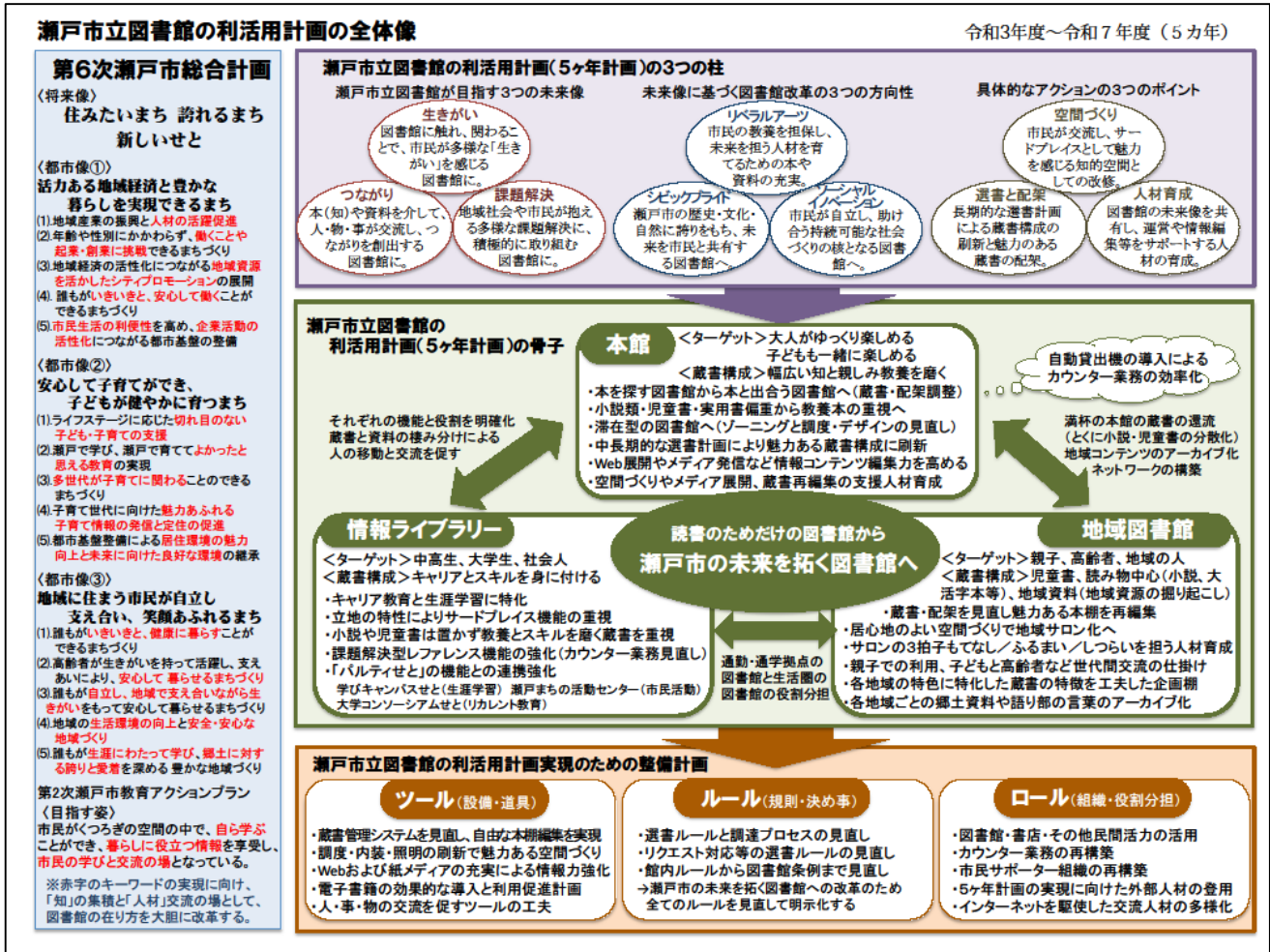
<図書館整備の経緯>

- 平成27年度 「図書館整備基本構想」の策定。
- 平成28年度 費用や適地の可能性を検証する中で、新たな建設を断念。
- 平成29年度 現在の施設を継続利用するに当たり、市民の意見を受け止め改善していくこととした。
- 平成30年度 図書館協議会にて図書館のあり方について議論。
- 令和元年度
- 令和2年度 現在の施設を継続利用するに当たり、計画的な改修を行うため「図書館利活用計画」を策定

図書館協議会において、現在の施設を継続利用するには、老朽化した施設の修繕と合わせ、利用しやすい施設とするための改修が必要であるが、約1,500㎡の床面積に多くの機能を求めることは不可能であり、どの機能を残し、どの機能をやめていくかを含め精査する必要があるとした。

また、今後の図書館の在り方について検討する中、ひとつの大きな中央館でのサービスではなく、今ある施設を有効活用し、本館、パーティセと情報ライブラリー及び地域図書館（令和7年10月より8館）の特性を生かしながら連携させて、全体で図書館サービスを行う方向性を見出した。本館、パーティセと情報ライブラリー及び地域図書館にそれぞれ機能分担し、本館をスリム化させた上で、改修する計画を作成したものが「瀬戸市立図書館の利活用計画」である。

瀬戸市立図書館の利活用計画全体像（令和2年度策定）



利活用計画実現のための整備計画（抜粋）

- ・ 選書ルールと調達プロセスの見直し（ルール）
- ・ 図書館・書店・その他民間活力の活用（ロール）



整備計画を進めていくことが、「図書館と書店等が連携した・経営・運営」、「図書館・学校図書館と地域協働による読書のまちづくり推進事業」へとつながった。

選書ルールと調達プロセスの見直し（ルール）

東京の業者が装備した図書を地元の書店納入組合を通して調達していたものを、地元書店組合が装備した図書を地元書店から調達する方法に変更した。装備代は別途契約としている。

装備は、「幕別モデル」を参考にし、市内福祉施設と書店納入組合が連携して行っている。福祉施設には、市の担当課（社会福祉課）を通して全施設に声をかけ募集した。また、書店納入組合からも積極的に施設に声をかけてくださり、3施設から手が上がった。希望のあった施設には図書館から出向き、装備の方法のレクチャーを行った。その際、トーハン提供の「装備スタートキット」を活用した。

装備を福祉団体に依頼することにあたって、福祉団体を低く見ているのではという批判的な意見もいただき、導入に踏み出すのに迷いも生じたが、福祉団体の代表の方に相談したところ、「ありがたい話で、声をかければ、やりたいという施設がある」とお聞きし、最初の一步を踏み出すことができた。また、現在、装備をしてきている施設からは、市の仕事に携わることができることは、やりがいがあり、誇りであるとの声をいただいている。



<取組の成果>

東京の業者からの直接納入は、電算システムとも連動していて、図書の発注から受入れまで一気通貫のシステムであったため、人員不足を補うことができたが、司書の選書能力やレファレンスに必要な教養・知識・技術を身につける機会を奪っていた。地元の書店納入組合から本を一冊一冊確認して（見計らい※）発注、受入をすることにより、司書のスキルアップもでき、魅力ある蔵書構成につながった。

また、書店納入組合との連携により情報交換が密となり、地元書店と図書館双方の活性化が図られ、書店の存続にも貢献できている。

※見直し前も見計らいを行っていたが、業者が送ってくる図書をほぼ購入する形となっていた。現在は、見計らい用に依頼して、一冊一冊現物確認して購入を決定している。これは、書店納入組合の協力があって、実現できている。

図書館・書店・その他民間活力の活用（ロール）

書店との連携は、本の調達にとどまらず、イベントの協力も始まっており、書店（商店街）のイベントに図書館からワークショップの講師を紹介したり、読み聞かせイベントにボランティアを派遣した。また、商店街のイベント会場を借りて、図書館のイベント（高校生ビブリオバトル）を開催している。

さらなる連携協働による読書環境の整備・改善を目指し、教育委員会、図書館、学校、書店、商店街が参画する協議会を立ち上げた。この協議会のメンバーが実行部隊として事業を進めていった。

文部科学省の「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」の採択（令和7年4月24日決定）を受け、令和7年度に以下の事業を行った。

・寺子屋事業

大学生による学校図書館での学習支援、読書支援
書店による本の紹介

・大人の朗読会

書店での開催

・講演会

「ネット情報におぼれない学び方」
「出版記念イベントトーク」

・学校図書館の支援

選書（除籍を含む）の支援
書架の整備

・ワークショップ

本棚編集ワークショップ、本棚アップサイクルワークショップ
読書のためのワークショップ
絵本作家のワークショップ

・読書の祭典

「今村翔吾講演会」、演奏&朗読、高校生トークイベント

<協議会メンバー> 8名

せと末広町商店街振興組合理事長、瀬戸市立図書館用図書納入組合長
みうら書店代表
本・ひとしづく代表
株式会社きんつき代表取締役
教育部長
図書館長
学校教育課主幹兼管理指導主事
中学校長

本屋さんとの取り組み

寺子屋事業 夏休みに、学校図書館（地域図書館）にて開催。



本・ひとしづく店主田中綾氏より、中学生おすすめ本について聞く。
その後、参加者それぞれの読書体験で盛り上がった。



大学生が作成した中学生おすすめ本のポップ。
寺子屋に参加した中学生は、この中から本を選び、大学生に励まされながら、見事に読書感想文を書きあげた。

大人の朗読会 みうら書店にて、2か月に1回開催。

この朗読会は、リニューアル工事のため図書館が休館中であっても読書活動が絶えることなく開催できるようにと、書店からの提案で実現した。



朗読は、STEP※のメンバーの西尾十和子氏。
毎回、朗読する作品の周辺情報をお話いただき、好評。



西尾氏の呼びかけで、参加者の中から読み手が誕生。



<取組の成果>

寺子屋事業での本の紹介、大人の朗読会はともに市内本屋さんと実施することにより、本屋さんの魅力を知るきっかけとなった。

司書以外の本の紹介は、参加者にとって新鮮なものとなり、本屋さんに足を運びたくなったという声を聴いている。

また、朗読会の終了後も本の話で盛り上がり、店内はにぎやかで、図書館以外の場所で読書の交流ができるようになった。本への興味も広がり、本の購入にもつながっている。

※ STEP（瀬戸図書館エディターパートナーシップ）

図書館利活用計画での市民サポーター組織の再構築で、エディター養成講座を開催。養成講座修了生が立ち上げた組織が“STEP”で、そのメンバーは図書館の運営に様々な形で参画している。

学校図書館との連携

講演会 「ネット情報におぼれない学び方」 (学校図書館教育研究会研修会)

読書のまちづくり推進事業

講演会

ネット情報 におぼれない 学び方

10月24日(金)
午後3時～4時30分

会場: パルティせと4階マルチメディアルーム
定員: 30名(先着順)

講師 梅澤 貴典 氏

日常のほとんどの問題はネットですべて解決!?

タブレットがあるのに、なぜ、探求学習で図書館を使うの?

ネット時代の読書・図書館の価値って?

申込 10/1～電話にて
TEL0561-82-2202
瀬戸市立図書館

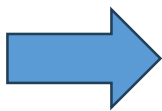
主な著作物
『ネット情報におぼれない学び方』
(岩波ジュニア新書)

青山学院大学第二文学部
英米文学科卒業。在学中は
4年間、同大学の図書館で
学生職員としてフルタイム
勤務し、図書館司書資格を
取得。1997年より、中央大
学職員、理工学部の図書館
で電子図書館化と情報リテ
ラシー教育を7年間担当し
た経験を活かし、小学生か
ら大学院生・社会人までを
広く対象とした探究活動の
支援とその効果を研究中。
働きながら、東京大学大
学院教育学研究科修士課程を
修了。修士(教育学)

梅澤貴典氏(中央大学職員、図書館司書)をお招きして、どうすれば確かな情報が探せるのか等を学ぶ機会とした。

この題材で、講演会を行ったきっかけは、教育委員会の勉強会において、参加者から「ネットがあれば簡単に本が手に入る時代に、まちに本屋さんを残そうとする国の動きは、時代に逆行している。」といった意見が出されたことへの危機感からである。また、読書のまちづくり推進事業協議会の委員から「学校現場では、タブレット1人1台の時代となったが、探求学習の在り方については悩みの種である。ネットと本の情報を上手く活用した探求学習について教員が学べる機会が欲しい。」という意見もあった。「学校図書館教育研究会」との共催とし、先生方の参加しやすい時間帯での開催とした。

学校図書館の支援 「ひと箱本棚」づくり



楽しい本棚に変身!



学校図書館の整備についての相談が、中学校2校からあり、司書が学校図書館を訪問し、アドバイスをを行った。

1校は、「下駄箱のような本棚で使い勝手が悪い」という校長先生からのSOSだった。新しい書架の設置は、すぐに叶うものではなかったが、その本棚を「ひと箱本棚」として活用することを提案したところ、コミュニティ・スクールの地域コーディネーターさん等がすぐに実践された。この中学校では、金城学院大学図書館学生ボランティア<LiLian>さんから支援を受けており、今回の「ひと箱本棚づくり」もその1つとなった。

書店との連携

講演会 出版記念トークイベント

読書のまちづくり推進事業

出版記念イベント

11月29日(土) 10:00~11:30

会場: パルティセと4階
マルチメディアルーム
定員: 75名

参加するには、入場整理券(10/30より配布)が必要です。
<配布場所>各店舗25枚配布予定
春広書店(末広町2-14)
本・ひとしずく(陶生町24)
みうら書店(西追分町35)

著者 林ともみさん
によるトークイベントです

<Profile>
瀬戸市手をつなぐ育成会会長
競輪番組テレビキャスター、ラジオレポーターを経て、2009年よりラジオサンキューFM84.5にてパーソナリティを務める。福祉番組「ともみとともに」では、心のバリアフリーの浸透をめざして明るく福祉を発信中!
司会・パーソナリティなどのほか、21番環状染色体の長女・美優(みゆ)さんと歩む日々や仕事をテーマに講演活動も精力的に行っている。

書名「まあるく生きる」
林ともみ/著
こま書房新社
ISBN:9784341088873

主催: 瀬戸市立図書館・読書のまちづくり推進協議会
(☎82-2202)

瀬戸市出身、在住の著書の出版記念イベントの開催

イベントに参加するための入場整理券を書店で配布することとした。書店に足を運んでもらうのが、ねらい。

また、図書館では著者から寄贈された1冊のみを受入れ、館内閲覧資料とし、館外貸出を開始するのは、4月以降とした。

(郷土人の著作は、郷土資料として受入れ、禁帯とし、複本で貸出用を受入れることとしている。)

著者は、瀬戸市内近郊の書店に回り、本を置いてもらうようにあいさつ回りをしており、多くの書店で本が並ぶようになった。店頭で手に入る本は購入してもらおう。今回は、書店と図書館との棲み分けをするための実証実験とした。

アンケートの結果より、この試みは、概ね理解されたと考えている。

<取組の成果> アンケート結果より (参加者35名中28名が回答)

Q 今回の申し込み方法について (3択)

- ① 本屋さんに行くきっかけとなった 14名
- ② 入場整理券を手に入れる方法がめんどろだった 1名
- ③ その他 13名

書店には常々行ってます

書店に行ったら、たまたま教えてくれた

めんどろで参加をやめてしまう人があるかもと心配したが、書店で入場券を配布した理由がわかった

アンケートの自由記載欄においても、

すてきな本屋さんに行くきっかけになった。

本屋さんや本に親しんで欲しいという気持ちがすばらしい。

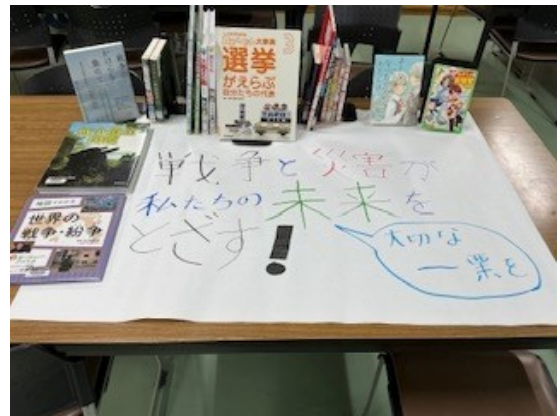
入場整理券を取りに行ったとき、欲しい本を見つけて購入したなどの感想等があった。

学校図書館での取り組み

ワークショップ

本棚編集ワークショップと本棚アップサイクルワークショップ

本棚に並べる本の編集とそれらを並べる本棚をアップサイクルで作成するワークショップを開催。2つの本棚ワークショップで、“中”と“外”を完成！



本棚編集ワークショップは、「図書館利活用計画」作成時のアドバイザー太田剛氏（図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター）を講師としてお迎えし、夏休みに3つの学校図書館（地域図書館）で開催。

小中学生中心に大人も同じグループで、ワークを進めた。

このワークショップのねらいの1つは、「図書館利活用計画」で目指す図書館の姿「本を探す図書館から本に出会う図書館」のための“テーマ別配架”を市民に知ってもらい、その楽しさを体感してもらうことであった。



本棚アップサイクルワークショップは、リニューアルする図書館改修設計のコンセプトが「アップサイクル（持続可能、図書館のあるべき姿を未来につなぐ）」であることを受け、「地域の豊かな暮らしが持続するための仕組みをつくる」をビジョンとしている（株）きんつぎの代表取締役 野々垣賢人氏を講師にお迎えしてのワークショップである。

「瀬戸らしいアップサイクル」について（ワークショップの冒頭にて、講師より）

この講座でのアップサイクルは、瀬戸のまちなかになじんでいる風景や、せとものの記憶の継承を軸に考えました。

瀬戸の街を歩いていると、せとものを運ぶために使われていた色とりどりの「サンテナ（プラスチックケース）」が積み重ねられている光景をあちらこちらで目にします。これは瀬戸の産業を支えてきた、地域になじみ深い日常の風景です。

今回の取り組みは、その役目を終えたサンテナを、今度は子どもたちが使う「本棚」へと作り変え、新たな役割を与えるものです。

単に新しいものを作るのではなく、瀬戸という地域の資源を使い、次の世代に地域をつないでいきたい。そんな想いを込めています。

商店街との協働

2つの本棚ワークショップで出来上がった本棚を商店街で披露（R7.11.2～11.16）



本棚の披露はお店の前に展示させてもらえるようアップサイクルワークショップの講師野々垣氏が、店主に掛け合ってください、実現した。



商店街での、お披露目の最終日（11/16）の前日、STEPのメンバーがにじの丘ライブラリー（にじの丘学園学校図書館）に集まり、本棚にさらに本を足し、見ごたえある本棚を完成させた。お披露目会の当日は、STEPのメンバーが、その文脈ある本棚を愛情込めて披露した。夏休みのワークショップに参加した親子もお披露目会に来て、「ワークショップでは、関係性やつながっていくことの面白さを体験することができた」と振り返ってくれた。グループのメンバーが、それぞれ自分の思いで集めてきた本が、その関係性をつないでいくことで、文脈のある本棚に変身！リニューアルする図書館は、ワクワク、ドキドキする本棚のある図書館になるように市民の皆さんとつくっていくという思いを強く確認できたイベントとなった。

商店街との協働

読書の祭典

11月2日（日）、11月16日（日）の2日間、
末広町商店街ニコニコ広場にて開催

読書のまちづくり推進事業



今村翔吾

講演会

直木賞作家
2022年「塞王の楯」で
第166回直木三十五賞受賞

- 11月2日(日)
13時30分～
14時45分
- 末広町商店街
ニコニコ広場

サイン会 14:45～
当日販売の書籍購入者に
限ります。

同日 10:00～15:00
招き猫フリーマーケット開催

お問い合わせ先
瀬戸市立図書館
TEL0561-82-2202



読書のまちづくり推進事業

11月16日(日)
読書の祭典
Part 2

末広町商店街
ニコニコ広場

11:00～12:00
せともの打楽編演奏者
詩貴さん
ミニコンサート
朗読とのコラボあり

13:00～13:40
あの「マツコの知らない
世界」に出演した
鍾物コレクターの
山田早也さん登場！

13:45～14:30
テーマ別本種のお披露目
編集したテーマ本とどれら
を展示する移動式本棚を
みんなで、作りました！

日本児童文学者協会新人賞受賞！！
奈雅月ありす さんの登場あり
「ロボットの たまごをひろったら」
ポプラ社 ↑↑↑↑
本棚に並びます

主催：瀬戸市立図書館・読書のまちづくり推進協議会(TEL 0561-82-2202)




商店街との協働



せと末広町商店街では、読書の祭典等、図書館のイベントに連動させて、さまざまな取り組みが行われた。地域における読書環境の整備を目指し、商店街での読書イベントを展開するなか、商店街関係者2名が協議会のメンバーであり実働してくれたことで、読書を通じて交流があり、商店街の活性化につながった。

<取組の成果>

著名人を招致しての講演会は、単なる打ち上げ花火になりかねないという批判もあったが、すそ野を広げるという意味では、大きく貢献できている。図書館が無料で本を貸すから本屋がなくなるなど、図書館界と出版業界の軋轢が言われて久しいが、今村翔吾氏は、「図書館界と出版業界との不毛な争いはやめよう」と常々おっしゃっていて、それらを解消するために様々な仕掛けをされている人物。今回の講演会でも活字文化、出版業界を盛り上げるためにご自身で出来ること、本屋さんの必要性や本の魅力などお話しいただいた。直木賞作家が来る、話題のネットドラマ作品の著者である、商店街に行ったら、著名な人が来ていたなどの理由で参加された人も読書の魅力を知るきっかけとなった。地域のいたるところで読書文化に触れられる読書のまちづくりの第一歩となった。今後も商店街との連携事業を続けていきたい。

今後の図書館運営について

本市において令和5年度より「市民満足度の向上と効果・効率の追求」の検討を進めている中、図書館においては、「事務改善・適正化の取組」として休館日の見直し(週休日の確保)及び、窓口対応時間の見直し、「働き方改革の推進」として民間委託(人件費振替委託)の在り方について検討を進め、第6次瀬戸市総合計画「事業評価」と「対話」による事業見直し等においてその実施が位置付けられた。

そのことを受け、令和8年3月末に現委託契約期間が終了し、同年9月には「図書館リニューアル・オープン」をすることを機に、地域図書館の充実、DXの推進を行うとともに下記のとおり、休館日・開館時間の見直し、窓口業務委託の見直しを行うこととした。

図書館本館

- 【週休館日の設定】 毎月第4水曜日 ⇒ 毎週月曜日+毎月第4水曜日
- 【開館時間】 4月-9月 9:00~19:00 ⇒ 全期 9:00~18:00
10月-3月 9:00~18:00
- 【窓口体制】 民間事業者への委託 ⇒ 市職員による直営
- 【DXの推進】 電子書籍の充実、座席予約システムの導入、セルフ窓口等の拡充等

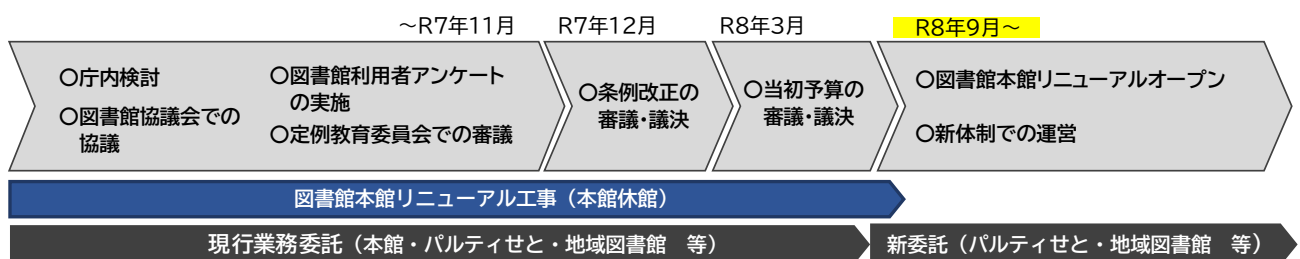
情報ライブラリー(パルティセと)

- 【週休館日の設定】 週休日なし ⇒ 毎週月曜日
- 【開館時間】 9:00~21:30 ⇒ 9:00~20:00

地域図書館

- 【地域図書館拡充】 全中学校区に開設
7館 ⇒ 8館
※令和7年10月~長根小学校に新設

<これまでの流れと今後のスケジュール>



トークイベント開催

本屋好き

集まれ！



「まちの本屋さんが消えていく」と言われているなか開業した本屋“本・ひとしずく”で、『町の本屋はいかにしてつぶれてきたか』の著者、飯田一史氏のトークイベントを開催

● 2月19日(木) 18:30~20:00

会場
参加費
申込
定員

本・ひとしずく(瀬戸市陶生町24)

500円

メールにて(①氏名②電話番号を記入) toshokan@city.seto.lg.jp

20名(先着順)

問い合わせ

瀬戸市立図書館 (電話 0561-82-2202)

本・ひとしずく (Instagram DM @hitoshizuku_books)



絵本『ぽんこん』作者 もりのじるさん が地域図書館にやってくる!!!

申込不要

もうしこみふようです

○絵本作家の読みきかせ



2/28(土)

午前10時30分～正午

会場：
長根小学校
地域図書館

瀬戸市立図書館

電話：0561-82-2202

読書のまちづくり推進事業

「第5回 大人の朗読会」



【日時】2月28日(土) 3月6日(金) 午後1時30分~2時30分

(書店前道路の工事のため日程が変更となりました。)

【場所】みうら書店 瀬戸市西追分町35番地(市役所北側・瀬戸追分郵便局西隣)

【講師】西尾十和子 氏

(公財) 文字・活字文化推進機構 朗読指導者養成講座修了
STEP(瀬戸図書館エディターパートナーシップ)

【定員】10名(先着順)

【申込先】瀬戸市立図書館 0561-82-2202 または みうら書店 0561-82-5435

瀬戸市立図書館 ☎ 82-2202